

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 3 月 31 日現在

機関番号：32620

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009 ～ 2011

課題番号：21592780

研究課題名（和文）慢性呼吸器疾患を対象とした欧米型セルフマネジメント教育の導入と効果の検証

研究課題名（英文）Development of the new evidence-based Western style self-management education tools and system for patients with chronic respiratory disease.

研究代表者

植木 純（UEKI JUN）

順天堂大学・医療看護学部・教授

研究者番号：50203427

研究成果の概要（和文）：欧米の慢性呼吸器疾患患者を対象としたセルフマネジメント教育手法を解析し、わが国の現状に即したセルフマネジメント教育のツール、プログラムを開発、効果を検証した。作成したプログラムの展開では、患者と共に作成するアクションプランの作成・ゴール設定作業に重点をおいた。介入による効果の検証では、健康関連 QOL や運動耐容能（6 分間歩行距離：6MWD）の改善、良好なアドヒアランスなどのアウトカムが得られた。今後、より強い有用性のエビデンスを得るために大規模な無作為対照試験を展開する予定である。

研究成果の概要（英文）：We have developed the new Western style self-management education tools and system for patients with chronic respiratory disease. Making plans for action and goals in collaboration with patients in written form are essential for the new program. In the clinical trial of our new program, outcomes such as the improvement in HRQOL, functional capacity (6MWD) and high adherence rate were obtained. We will conduct large scale randomly controlled study to obtain the strong evidence for the usefulness of the new self-management education program in the near future.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	2100,000	630,000	2730,000
2010 年度	800,000	240,000	1040,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	3500,000	1050,000	4550,000

研究分野：臨床看護学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：患者教育、セルフマネジメント、慢性呼吸器疾患、COPD、慢性看護学

## 1. 研究開始当初の背景

呼吸器疾患領域においても、国際的にセルフマネジメント教育の重要性は認識されていたが、教育効果の科学的なエビデンス、最適な指導方法を開発することができずに長年が経過していた。禁煙指導を除き、知識を与えるのみの教育プログラムは QOL の改善をもたらさないとの報告等、慢性呼吸器疾患

者を対象とした患者教育の科学的な評価は乏しかったのが現状である。

しかし、2007 年に入り、セルフマネジメント教育が注目され位置づけが大きく変貌した。同年に発表されたメタアナリシスにおいて、セルフマネジメント教育による入院日数減少効果が初めて明らかにされ、米国心肺リハビリテーション協会・米国胸部医学会の

2007年改訂ガイドラインにおいても、「患者教育は、呼吸リハビリテーションの不可欠な構成要素であり、相互的なセルフマネジメント、急性増悪の予防と治療に関する情報提供が必須」として、エビデンスレベルはB(中等度)、委員会の推奨レベルは1(高い)に初めて位置づけられたためである。

国際的な動向と協調するように、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会が中心となり、呼吸器に関連する4学会合同で「呼吸リハビリテーションマニュアル—患者教育の考え方と実践—」が2007年に出版された。研究代表者は事務局としてマニュアルのピアレビュー、編集を担当したが、作成作業を通して、わが国の実情に即した標準的なセルフマネジメント教育プログラムの開発、その教育効果に関して科学的エビデンスをわが国からも発信する必要性を着想するに至った。

実際に研究代表者が委員・事務局として企画し、2005年に日本呼吸器学会から発行された「在宅呼吸ケア白書」においても、患者サイドからの要望として「療養生活についてもっと教えてほしい」が第1位で80%を占めた。患者教育の社会的ニーズは極めて高い。在宅酸素療法導入患者においても、呼吸リハビリテーションを指導された患者は63%に止まっていた。欧米でエビデンスの示されたセルフマネジメント教育法の導入、わが国における科学的なエビデンスの確立は急務である。

## 2. 研究の目的

(1) 欧米で先進的に行われている慢性呼吸器疾患を対象としたセルフマネジメント教育の方法を検討する。

(2) 欧米型セルフマネジメント教育を参考にわが国の現状に即した慢性呼吸器疾患を対象としたセルフマネジメント教育のツール、プログラムを作成する。

(3) 作成したセルフマネジメント教育プログラムの有用性を検証する。

## 3. 研究の方法

(1) 欧米型セルフマネジメント教育のコンテンツ、手法について解析し、特に最も効果的なアウトカムを報告したカナダマギル大学ヘルスセンター、チェストインスティテュート(モントリオール)を視察し、指導ツールや指導方法を解析する。

(2) (1)の検討に基づきわが国の現状に即した慢性呼吸器疾患患者を対象とした新しいセルフマネジメント教育のツール、プログラムを作成する。

(3) 慢性呼吸器疾患患者を対象に作成したセルフマネジメント教育プログラムの有用性を研究代表者の所属する大学の附属病院、関連病院外来で検証する。研究は倫理委員会の承認を得て行う。

## 4. 研究成果

### (1) 欧米型セルフマネジメント教育のコンテンツ、手法について:

欧米では先進的な患者教育は、インテグレイテッドケア、セルフマネジメントプログラム、ディジーズマネジメントプログラムとして検討され報告されていたが、本研究では、最も効果的なアウトカムを報告したカナダのマギル大学附属ヘルスセンター、チェストインスティテュートを視察した。研究代表者、分担者、協力者(植木、佐野、滝澤)が慢性呼吸器疾患患者を対象としたセルフマネジメント教育の手法、医療チームや実際に使用する書類等に関する情報収集やCOPDナース等へのインタビューを行った。

マギル大学では、ジャン・ボルボー医師が中心となり「Living well with COPD」というプログラムが実施されていた。プログラムでは、まず患者にCOPDに関する総合的な内容を記載したテキストを渡し、専任のCOPDナースまたはケースマネージャーがついて、セルフマネジメント手法の教育などを行っていた。このプログラムでは、患者個々にアクションプランが作成され、それに基づいて指導が行われる。

ボルボーらのCOPD患者を対象としたセルフマネジメントプログラムによる無作為対照試験(介入群 vs 通常外来診療を継続する対照群)では、介入群は対照群に比べて、増悪による入院が約40%減少し、救急外来の受診も約40%減少した。さらに、セルフマネジメント教育による介入を行った1年後、2年後における効果の検証では、2年後の調査でも対照群と比べて、入院頻度を減少させる効果が得られていた。介入のフォローアップは1年で終了していたので、この結果は、セルフマネジメント教育という介入が持つ大きな力を示しているといえる。

アクションプランは、患者の自己管理能力を向上させるための不可欠なツールであり、アクションプランは「体調がよい日」「体調が悪い日」の行動を明記して、書面で患者に手渡されていた。「調子がよい日の1日の過ごし方」「調子が悪い日の1日の過ごし方」「1週間の運動計画」「1日の目標エネルギーを摂取するための食事計画」「増悪時の服薬計画・受診のタイミング」等、長期的な目標設定も含めた運動の計画、増悪などへの対処に対するアクションプランが患者のニーズに合わせて作成される。また、症状については、「体調がよい日」とはどのような場合か、「体調が悪い日」とはどのような場合かを具体的に示したうえで、「体調がよい日」、「体調が悪い日」にそれぞれ何を行わなければならないかが明記される。さらに、症状は

1 日の間でも変動すること、どの程度の変動が正常で、どのような状況が生じると「症状が悪化している」と捉えられるかを示し、とるべき行動を記載する必要がある。アクションプランを口頭で伝えた場合と記述したものを渡した場合を比べると、後者の方が患者のアクションプランを使う頻度が高くなることも検討されていた。

ケースマネージャーは看護師や呼吸療法士などの資格をもった専任スタッフである。COPD ナースの育成はチェストインスティテュート内で、ケースマネージャーの育成はカナダ全体の研修システムにより行われていた。また、研究代表者、協力者（植木、滝澤）がセルフマネジメント教育に関連する今までに行った研究を同大学セミナーで講演し、セルフマネジメント教育の最適化についてディスカッションを行った。

(2) 慢性呼吸器疾患患者を対象とした新しいセルフマネジメント教育のツール、プログラムの作成について：

セルフマネジメント教育プログラムのコアとなるセルフマネジメント指導用教材を研究代表者、分担者、協力者で作成した（植木、佐野、滝澤、川本、佐野（裕）、北原、吉田、志田）。教材は COPD を中心に慢性呼吸器疾患全般を対象とし、「セルフマネジメントの重要性」、「肺のしくみとはたらきの理解」、「病気を知ってセルフマネジメント」、「くすりの上手な使い方」、「禁煙と受動喫煙の予防」、「ワクチン接種は重要」、「急な増悪を早期発見、普段からの健康管理で進行予防」、「息切れを軽くする日常生活の工夫」、「肺の病気にも栄養が大切」、「社会資源の活用術」、「活動性を高めるための在宅酸素療法」、「健康を維持・増進する運動」およびセルフモニタリングのための日誌の構成とした。

イラストを多用し、患者が指導スタッフと相談して作成したアクションプランやゴール等をテキスト中に書き込みながら実践、達成し、また、セルフマネジメントに必須の要点項目は Q and A で回答しながら学習する等、過去の患者用教材には全くない特徴を持たせた。指導のプロセスとしては、一般的に初回に指導される「肺のしくみとはたらきの理解」から導入せず、第 1 章は「セルフマネジメントの重要性」について修得するようにした。

特に、日本呼吸器学会在宅呼吸ケア白書 2010 で強く患者サイドから要望されていた ADL 指導は「息切れを軽くする日常生活の工夫」として頁数および内容を充実させ、呼吸リハビリテーションに相当する「健康を維持・増進する運動」の章では、患者自身が自宅で安全に実践でき、理学療法士以外の職種

も適切に指導できるように、写真を多用し、息切れの強さから容易に設定できる運動強度等を含めた解説を加えた。

セルフモニタリングのための日誌では、ブルグスケール CR-10 を用いて安静時や労作時の息切れの強さの変化のモニターする点に重点を置いた。

(3) 慢性呼吸器疾患患者を対象としたセルフマネジメント教育プログラムの有用性について：

① 少人数グループ制でのセルフマネジメント教育：

プログラムは少人数グループ制とし、指導頻度・期間は週 1 回全 6 週間、1 回 90 分とした。自宅で過ごす間は、アクションプランに沿った運動、テキストの復習、日誌を使用したセルフモニタリングを指導した。開始前、終了時、終了 2 ヶ月後に評価を行った（図 1）。

ステージ II～IV (GOLD) の COPD 患者 3 名（平均年齢：65.6 ± 2.5 (SD) 歳、FEV<sub>1</sub>: 1.15 ± 0.56L）を対象に検討を行った。

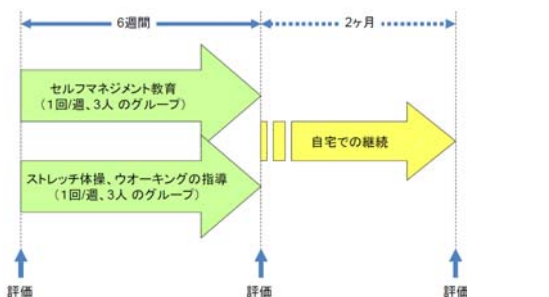


図 1：少人数グループ制セルフマネジメント教育による臨床介入のプロトコール

参加者のアドヒアランスは良好で、全 14 週間の間にドロップアウトはなかった。

SGRQ（セントジョージ レスピラトリークエッションネア）を用いた健康関連 QOL の評価では、総ポイントが介入前 33.5 [12.7] ポイントから介入後 23.2 [10.6] に減少、臨床的に意味のある最小有意差 (MCID) 4 ポイントを大きく超える改善効果が得られた（図 2）。



図 2：少人数グループ制セルフマネジメント教育による健康関連 QOL の改善効果

2 ヶ月後では、修得したセルフマネジメント

の継続によりさらに 17.1[9.3] ポイントに改善し、介入前と比較して約 16 ポイントと大きな改善効果が得られた。

運動耐容能の評価として行った 6 分間歩行試験 (6MWT) では、6 分間歩行距離 (6MWD) は、介入前 325.8[30.2] (平均[SD]) m から介入後 363.3[63.2]m と平均 37.5m 増加した。さらに指導後の運動のセルフマネジメントにより、健康関連 QOL と同様に 2 ヶ月後には介入前に比べて 44m 増加した。

また、知識面の調査として行った LINQ (ラング インフォメーション ニーズ クエッションネア) では、自己管理を含むすべてのドメインでの改善を認めた。

## ②個別でのセルフマネジメント教育：

個別的な指導によるセルフマネジメント教育では、セルフマネジメント教育へのアドヒアランスをプライマリーアウトカムとして評価した。指導時間は 20~40 分とし、指導間隔は疾患の重症度、患者の都合等を考慮し患者と相談して決定した。セルフマネジメントへのアドヒアランスを向上させる上で、今回作成したテキストより指導内容別のテキスト別刷小冊子を作成、指導の進行に応じて必要部分を配布し指導した。また、指導内容では「セルフマネジメントの重要性」「健康を維持・増進する運動」より指導を開始した。

「セルフマネジメントの重要性」では、セルフマネジメントの疾患進行に対する予防効果、ゴール設定、アクションプランの作成について重点をおき、「健康を維持・増進する運動」では、個々の目標とするストレッチやウォーキングの歩数や時間を共に相談し冊子内の表に直接記入して指導した。その後に「息切れを軽くする日常生活の工夫」「急な増悪の早期発見」、「感染予防」の指導を展開した。少人数グループ制時と同様に「セルフマネジメントダイアリー」を印刷・配布し、セルフモニタリング能力の向上を目的に記録を指導、指導時のコミュニケーションツールとしても使用した。

慢性呼吸器疾患患者 44 名 (平均年齢 74.3 歳、男性/女性:40/4、疾患内訳 COPD 38、IPF[特発性肺線維症]3、他 3) に指導を行い、アドヒアランスは 95%と良好であった。また、セルフモニタリングにおいてボルグスケール CR10 によるアセスメントが急性増悪の有無や日々の活動における動作レベルの決定に有用となることが示唆された。

平成 21 年度から平成 23 年度の研究により、慢性呼吸器疾患を対象としたセルフマネジメント教育の指導方法を確立し、セルフマネジメントに必須の要点項目を Q and A 等で解説、アクションプランやゴール等を書き込み

ながら実践・達成する教材を国内ではじめて作成した。臨床の場での介入では健康関連 QOL、運動能力の向上や、良好なアドヒアランス等の結果が得られたが、少人数グループ制の指導による介入では対象者数が十分ではなく、本年度は最終年度ではあるが、次年度に規模の大きい無作為対照試験を実施する予定である。

一方で、今回の研究で作成したセルフマネジメント教育のための資料、指導方法を広く社会に普及させ、さまざまな自・他施設、患者会等が主催する研修会、セミナー等で紹介・講演する機会を得るように継続して活動していく予定である (最終年度における活動：佐野 恵美香、講演タイトル：呼吸のセルフマネジメント教育、第 8 回呼吸リハビリテーション研修会、日本呼吸ケアリハビリテーション学会主催、平成 24 年 3 月 3 日、順天堂大学浦安キャンパス、浦安市、千葉県で講演、植木 純、宮古島市合同市庁舎、沖縄県で講演、平成 24 年 3 月 17 日、講演に関する報道：ニュース見出し：呼吸を楽にし健康増進・順天堂大学植木教授在宅酸素療法患者に対し講話、宮古新報、平成 24 年 3 月 18 日版 5 面)、ニュース見出し：健康増進への工夫紹介・在宅酸素療法で講演会、宮古毎日新聞、平成 24 年 3 月 18 日版 10 面) 等。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 26 件)

1. 植木 純、熱田 了、十合晋作、COPD の内科的最大限の治療とは、内科医のための気管支喘息と COPD 診療、メディチーナ、査読なし、49 巻、2012、466-469
2. 十合 晋作、長濱久美、植木 純、開発が期待される薬物、COPD 薬物療法の新展開、Medicinal、査読なし、2 巻、2012、125-134
3. 植木 純、熱田 了、十合晋作、慢性閉塞性肺疾患 (COPD)、臨床栄養 Update 2011、メディチーナ、査読なし、48 巻、2011、432-435
4. 植木 純、呼吸器疾患と運動、運動と生活習慣病、成人病と生活習慣病、査読なし、41 巻、2011、304-312
5. 植木 純、呼吸機能検査の実際と評価、特集 COPD ガイドラインに沿った治療と最近の話題、総合臨床、査読なし、60 巻、2011、550-555
6. 福地義之助、木村 弘、長瀬隆英、植木 純、新たな手法により解明されつつある COPD 発症と加齢のメカニズム、COPD Selected Papers、査読なし、2 巻、2011、8-14

7. 一ノ瀬正和、植木 純、小川浩正、藤本圭作、COPD息切れへの対応、SABAの上手な使い方、呼吸、査読なし、30巻、2011、676-683
  8. 植木 純、在宅酸素療法の管理指導、COPD—予防から管理指導まで—、調剤と情報、査読なし、17巻、2011、593-596
  9. 植木 純、在宅酸素療法—患者は何を望んでいるのか—、四半世紀を経たわが国の在宅酸素療法—課題と提言—、The LUNG perspectives、査読なし、19巻、2011、308-312
  10. 植木 純、在宅管理—在宅呼吸ケア白書2010—、COPDの治療・管理update、日本胸部臨床、査読なし、70巻(suppl)、2011、s174-s180
  11. 植木 純、誤嚥性肺炎の病態生理、誤嚥性肺炎をどう防ぐか、Journal of Clinical Rehabilitation、査読なし、20巻、2011、812-815
  12. 植木 純、COPD安定期の管理、呼吸器ケア、査読なし、8巻、2010、79-87
  13. 植木 純、COPD進行予防への取り組み、日医生涯教育講座、肺の生活習慣病COPD〈慢性気管支炎・肺気腫〉、東京都医師会雑誌、査読なし、63巻、2010、35-45
  14. 植木 純、在宅呼吸ケア白書2010にみるわが国の現状、News and Views、査読なし、36巻、2010、1-6
  15. 植木 純、白書に基づいた在宅呼吸ケアの指針と提言、在宅呼吸ケアの新展開—「在宅呼吸ケア白書」の上梓を踏まえて—、日本胸部臨床、査読なし、70巻、2010、48-58
  16. 福地義之助、Bourbeau J、植木 純:COPDの息切れと併存症の管理、Medical Tribune、査読なし、43巻、2010、44-45
  17. 植木 純、呼吸リハビリテーションマニュアルの有効活用、呼吸器科、査読なし、15巻、2009、247-254
  18. 植木 純、在宅酸素療法・在宅人工呼吸、最近のCOPDと気管支喘息、臨床と研究、査読なし、86巻、2009、163-170
  19. 小池健吾、植木 純、高橋和久：高齢者の息切れと軽症のCOPDをどう見分けるか、高齢者におけるCOPD、老年医学、査読なし、47巻、2009、159-162
  20. 植木 純、GOLDガイドラインの概説、COPDの栄養療法、臨床栄養、査読なし、114巻、2009、248-254
  21. 植木 純、佐野恵美香、滝澤真季子：アドヒアランス、リハビリテーション心理学、社会学update、臨床リハ、査読なし、18巻、2009、621-625
  22. 植木 純、佐野恵美香、十合晋作、熱田了、COPD新ガイドラインで期待される予防と治療、在宅医療（在宅酸素療法・在宅人工呼吸）、治療学、査読なし、43巻、2009、965-972
  23. 植木 純、CTS（カナダ胸部疾患学会）ガイドライン up date版、呼吸、査読なし、28巻、2009、20-22
  24. 植木 純、黒澤 一、COPD治療におけるADL改善、呼吸、査読なし、28巻、2009、941-946
  25. 一ノ瀬正和、植木 純、木村啓二、COPD大規模臨床試験が教えるもの、呼吸、査読なし、28巻、2009、869-876
  26. 木田厚瑞、植木 純、堀江健夫、茂木 孝、呼吸器疾患のリハビリテーションと患者教育の新展開、呼吸、28巻、2009、958-967
- [学会発表] (計21件)
1. Ueki J, Fukuchi Y、Second World Conference of COPD Patient Organizations (招待講演)、Japanese experience in the collaboration of professional societies with respiratory patient organization、2011年11月7日、Renaissance Shanghai、Pudong Hotel (上海、中国)
  2. Ueki J, Fukuchi Y、Second World Conference of COPD Patient Organizations (招待講演)、What are the lessons learned from repeated catastrophic earthquakes in the urgent care for oxygen dependent respiratory patients、2011年11月7日、Renaissance Shanghai、Pudong Hotel (上海、中国)
  3. 植木 純、第21回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会、運動療法とセルフマネジメント教育、運動療法マニュアル改訂第2版を検証する、2011年11月3日、松本文化会館 (長野県)
  4. Ueki J, Mishima M, Oga T, et al (9名中1番目)、Annual ERS 2011 Congress、The current situation and the perspective of respiratory care in Japanese COPD patients revealed by Japanese White Paper on Home Respiratory Care 2010 - COPD subgroup analysis -, 2011年9月25日、Amsterdam RAI (アムステルダム、オランダ)
  5. Ueki J, Mishima M, Oga T, et al (9名中1番目)、American Thoracic Society 2011 International Conference、The Current Situation and the Perspective of Respiratory Care Revealed by Patient Survey in Japanese White Paper on Home Respiratory Care 2010、2011年5月17日、Colorado Convention Centre (デンバー・米国)

6. 植木 純、第51回 日本呼吸器学会学術集会（招待講演）、症状の重症度からみたCOPD診療の現状と課題 —日本呼吸器学会在宅呼吸ケア白書より—、症状からとらえたCOPD、2011年4月22日（東京フォーラム、東京）
  7. 植木 純、第7回呼吸リハビリテーション研修会（日本呼吸ケア・リハビリテーション学会）呼吸器疾患と呼吸リハビリテーション、2011年3月5日（郡山健康科学専門学校、郡山）
  8. 佐野恵美香、植木 純、第30回 日本看護科学学会学術集会、COPD患者におけるセルフマネジメント教育の有用性の検討、2010年12月4日、札幌コンベンションセンター（札幌）
  9. 黒川佳子、植木 純、佐野恵美香、滝澤真季子、他（6名中2番目）、第20回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会、慢性呼吸器疾患患者の外出時における移動手段の現状と課題—全国アンケート調査より—、2010年10月2日、長崎ブリックホール（長崎）
  10. 植木 純、第20回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会、白書に基づいた在宅呼吸ケアの指針と提言、在宅呼吸ケア白書2010、2010年10月2日、長崎ブリックホール（長崎）
  11. 植木 純、第20回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会、新しいマニュアルのコンセプト、将来への課題、新しい呼吸リハビリテーションマニュアル—運動療法—改訂第2版をめぐって、2010年10月1日、長崎ブリックホール（長崎）
  12. Ueki J、Mishima M、Oga T（7名中1番目）、et al、European Respiratory Society 2010 Annual Congress、The current situation and the perspective of long term oxygen therapy and home mechanical ventilation revealed by physician survey in Japanese White Paper on Home Respiratory Care 2010、国際会議場、（バルセロナ、スペイン）
  13. 植木 純、第50回 日本呼吸器学会学術集会、白書に基づいた在宅呼吸ケアの指針と提言、在宅呼吸ケア白書2010、2010年4月24日、京都国際会議場（京都）
  14. Ueki J、Garrod R、Jones P、et al（8名中1番目）、Respiratory Epidemiology and Clinical Research (RECRU) seminar（招待講演）、The differences in physiotherapy techniques between Japan and UK for patients with chronic pulmonary diseases、2009年11月25日、McGill University Health Centre（モントリオール、カナダ）
  15. Takizawa M、Ueki J、Kawamoto F、et al（6名中2番目）、Respiratory Epidemiology and Clinical Research (RECRU) seminar（招待講演）、Self-management education using COPD-specific e-Health system：A Pilot study. 2009年11月25日、McGill University Health Centre（モントリオール、カナダ）
  16. Ueki J、Garrod R、Jones P、et al（8名中1番目）、14th Congress of the APSR and 3rd joint Congress of the APSR/ACCP. Respiriology、Evaluation of the differences in elements of physiotherapy techniques for patients with chronic pulmonary diseases between Japan and UK、2009年11月16日、COEX（ソウル、韓国）
  17. Takizawa M、Ueki J、Kawamoto F、et al（6名中2番目）、14th Congress of the APSR and 3rd joint Congress of the APSR/ACCP. Respiriology、Self-management education for patients with moderate to severe COPD by using COPD-specific e-Health system、2009年11月18日、COEX（ソウル、韓国）
  18. 佐野恵美香、滝澤真季子、植木 純、第19回 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会、呼吸リハビリテーションの現状と展望、呼吸リハビリテーションとセルフマネジメント教育、2009年10月31日、品川プリンス（東京）
  19. 植木 純、第49回 日本呼吸器学会学術集会（招待講演）、全身性炎症と呼吸リハビリテーション、2009年6月12日、東京フォーラム（東京）
  20. 植木 純、第49回 日本呼吸器学会学術集会COPDの併存症をめぐって、COPD併存症の文献的考察、2009年6月12日、東京フォーラム（東京）
  21. Ueki J、Senju H、Kurosawa H、Kozu R、American Thoracic Society 2009 International Conference、Pulmonary Rehabilitation Survey - The Impact of the Practical Guideline 2007 on the Implementation of the Self-management Education in Japan、2009年5月18日、San Diego Convention Centre（サンディエゴ、米国）
- 〔図書〕（計20件）
1. 植木 純、学研メディカル秀潤社、呼吸リハビリテーション、呼吸器疾患ビジュアルブック、2011、372-381
  2. 植木 純、3学会合同呼吸療法認定士委員会事務局、呼吸リハビリテーション、



- 3 学会合同呼吸療法認定士、「認定更新のための講習会」テキスト、2011、134-153
3. 植木 純、佐野恵美香、滝澤真季子、照林社、1章セルフマネジメントの重要性、11章活動性を高めるための在宅酸素療法、呼吸を楽にして健康増進・呼吸のセルフマネジメント、2011、2-7、152-173
  4. 植木 純、照林社、2章肺のしくみとはたらしきの理解、3章病気を知ってセルフマネジメント、4章くすりの上手な使い方、5章禁煙と受動喫煙の予防、6章ワクチン接種は重要、呼吸を楽にして健康増進・呼吸のセルフマネジメント、2011、8-15、16-33、34-57、58-67、68-73
  5. 滝澤真季子、川本婦倫子、佐野恵美香、植木 純、照林社、7章急な増悪を早期発見、普段からの健康管理で進行予防、呼吸を楽にして健康増進・呼吸のセルフマネジメント、2011、74-97
  6. 佐野恵美香、佐野裕子、北原エリ子、植木 純、照林社、8章息切れを軽くする日常生活の工夫、呼吸を楽にして健康増進・呼吸のセルフマネジメント、2011、98-115
  7. 志田友美、植木 純、照林社、9章肺の病気にも栄養が大切、呼吸を楽にして健康増進・呼吸のセルフマネジメント、2011、116-137
  8. 吉田雅子、植木 純、照林社、10章社会資源の活用術、呼吸を楽にして健康増進・呼吸のセルフマネジメント、2011、116-137
  9. 植木 純、佐野裕子、北原エリ子、照林社、12章健康を維持・増進する運動、呼吸を楽にして健康増進・呼吸のセルフマネジメント、2011、174-206
  10. 吉見 格、植木 純、法研、肺の病気/閉塞性肺疾患（慢性閉塞性肺疾患COPD、びまん性汎細気管支炎DPB、気管支拡張症、原発性線毛機能不全、六訂家庭医学大百科、2010、1037-1044
  11. 三島理晃、植木 純、石原英樹、他、日本呼吸器学会、在宅呼吸ケア白書2010、2010
  12. 植木 純、3学会合同呼吸療法認定士委員会事務局、呼吸リハビリテーション。3学会合同呼吸療法認定士、「認定更新のための講習会」テキスト、2010、59-73
  13. 植木 純、佐野恵美香、熱田 了、他、最新医学社、疫学、新しい診断と治療のABC慢性閉塞性肺疾患（改訂第2版）、2010、22-29
  14. 植木 純、医学書院、呼吸リハビリテーション、吸入療法、今日の治療指針2009、2009、200-202
  15. 植木 純、中山書店、第1章呼吸リハビリテーションとは、第2章呼吸リハビリテーションの適応とエビデンス、第3章呼吸リハビリテーションに必要な解剖と機能、第4章呼吸リハビリテーションに必要な病態の理解、第6章Aチームによる呼吸リハビリテーションの展開、第7章A呼吸リハビリテーションとフィジカルアセスメント、第10章患者教育・栄養指導の実際、チームのための実践呼吸リハビリテーション、2009、2-7、8-13、14-19、20-34、47-51、56-64、167-192
  16. 吉見 格、植木 純、中山書店、第5章呼吸リハビリテーションに必要な疾患の理解、チームのための実践呼吸リハビリテーション、2009、35-46
  17. 滝澤真季子、植木 純、中山書店、第5章Bチーム医療とコーディネーターの役割、チームのための実践呼吸リハビリテーション、2009、52-55
  18. 永井厚志、青柴和徹、植木 純、他（27名中8番目）、日本呼吸器学会、日本呼吸器学会、COPD（慢性閉塞性肺疾患）診断と治療のためのガイドライン第3版、2009
  19. 植木 純：呼吸リハビリテーション、3学会合同呼吸療法認定士委員会事務局、3学会合同呼吸療法認定士、「認定更新のための講習会」テキスト、2009、57-71
  20. 植木 純、日本リハビリテーション医学会、在宅酸素療法と呼吸リハビリテーション、一般医家に役立つ呼吸器のリハビリテーション研修会テキスト、2009、74-97
6. 研究組織
- (1) 研究代表者  
植木 純 (UEKI JUN)  
順天堂大学・医療看護学部・教授  
研究者番号：50203427
  - (2) 研究分担者  
佐野 恵美香 (SANO EMIKA)  
埼玉県立大学・保健医療福祉学部・助教  
研究者番号：10404930
  - (3) 連携研究者  
なし
- 研究協力者  
滝澤 真季子 (TAKIZAWA MAKIKO)  
順天堂大学・医学部附属順天堂医院看護部・師長
- 川本 婦倫子 (KAWAMOTO FURIKO)  
順天堂大学・医学部附属順天堂医院看護部・主任

佐野 裕子(SANO YUKO)  
順天堂大学・大学院医学研究科リハビリテーション医学・講師（非常勤）

北原 エリ子(KITAHARA ERIKO)  
順天堂大学・医学部附属順天堂医院リハビリテーション室・理学療法士

吉田 雅子(YOSHIDA MASAKO)  
順天堂大学・医学部附属順天堂医院医療サービス支援センター医療福祉相談室・メディカルソーシャルワーカー

志田 友美(SHIDA TOMOMI)  
前順天堂大学・医学部附属順天堂医院栄養部・管理栄養士